

文化財を訪ねて — 見てある記 —

「道しるべ」は、やさしい花のおもてなし①

昨今、桶川の道路状況は大きく変貌しています。桶川・加納インターが出来て、埼玉県内では圏央道が全線開通しました。上尾道路が開もなく桶川・北本インターに接続すると、周辺の景観は更に一変します。新しい道ができる、道が広がる、すると、それ以前はどんな様子だったか、私たちの目からたちまちのうちに消え去ってしまいます。人々の営みは日々流れていくのですからそれは当然であり、やむを得ないことでもあります。しかし、往時の様子を示すすがとなるものも残されています。

道しるべや一里塚です。桶川市の文化財として指定された道しるべの内のいくつかをご紹介します。

「松山以奈り道の道しるべ」

東松山の箭弓稲荷神社への道を示すもので、中山道桶川宿の上の木戸付近を西に向かい、松山道に分岐するあたりにありましたが、べにばな陸橋の敷設等に伴い、今は桶川小学校の北側に場所を移してあります。高さ二メートルほどの堂々とした姿です。

正面には「松山^い以奈り道^な 本小田原町」右側面に天保七年（一八三六）三月左側面に「當驛世話人^{うちきせせわじん}」とあります。以奈りは稲荷の当て字です。箭弓稲荷神社は、五穀豊穡、商売繁盛 厄除け、火難除けなどの祈願社として多くの信仰を集めていました。

また、本小田原町は、日本橋と江戸橋の北岸にあった魚河岸です。十八世紀には人口百万を超える大都市に発展した江戸の人々の食卓を賑わせ、江戸の繁栄を象徴する魚市場でした。この、本小田原町を中心にして、江戸市民の間に箭弓稲荷神社信仰の沢山の講が組まれていました。講中の、また代参の人々や、近在四方の人々の参詣は引きも切らず、社前市を成す賑やかさだったといわれています。

この道しるべはそれらの人々の旅の便宜を図るため、本小田原町の人々の肝いりで建てられました。

道しるべの中に魚の文字が図案化されていて、江戸の酒脱と魚市場の人々の心意気を感じられる面白いものです。

「樋詰の道しるべ」

高さ四十センチほどの道しるべは樋詰^{ひづめ}氷川神社の鳥居の傍らにあります。

明和八年（一七七二）に建てられたもので、正面には「あきは道」「大官道」、右側面には「かうのす道」、左側面には「太郎玄門船渡」とあります。「あきは」は指扇の秋葉神社で火防、盗難除け病氣平癒等の守りであり、関東の総社として多くの参詣者がありました。「大官」は武蔵一之宮の大宮氷川神社を指します。こども、関東一円の水川神社の総社です。また平安時代に延喜式神名帳に記載された、いわゆる式内社として古来より多くの尊崇を受けていました。この道しるべから、荒川の舟運を利用し、この両社に参詣する人々が沢山いたことが読み取れます。今は静かな樋詰の道も当時は賑わい、道しるべに助けられた旅人はさぞ多かったことでしょう。

桶川市文化財保護審議会委員 天沼律子

◀松山以奈り道の道しるべ



樋詰の道しるべ▶